

哲学委員会哲学・倫理・宗教教育分科会（第25期・第3回）
議事要旨

日時 令和3年3月26日（金）18時00分～20時00分
会場 オンライン（Zoomミーティング）

出席者：中村征樹（委員長）、垣内景子（副委員長）、一ノ瀬正樹、上原麻有子、香川知晶、川橋範子、木村勝彦、河野哲也、小島優子、直江清隆、永崎研宣、藤原聖子、八尾史、八木久美子、奥田太郎（幹事）

審議事項

1. 前回議事録の確認

関連資料が提示され、前回議事録が確認された。

2. 大学での哲学・倫理・宗教教育の現状について

各委員からそれぞれの大学における哲学・宗教・倫理教育に関わる教育実践報告を定例で行うこととなり、今回は、小島優子委員による高知大学の実践報告、および、八尾史委員による駒澤大学の実践報告が実施された。

3. 前期報告を踏まえた分科会の今後の進め方について

中村委員長より、前回までの議論を踏まえて、次の3つのことを軸として、今後の具体的な展開について検討したいとの提案があった。

- ① 道徳教科書について、委員それぞれの観点から読んでコメントを行う。
- ② 行政官、教科書検定官など行政の立場から道徳教育に関わっている人との意見交換を行う。
- ③ 学校教育など、道徳教育に現場で関わっている人との意見交換を行う。

前期報告では、現在の道徳教育について丁寧に調査したが、その前身である「修身」について、その実態や歴史を専門家から学ぶことも重要ではないか、との提案があり、何が「道徳」の伝統を支えているのかを幅広い視点から吟味することの必要性が指摘された。

次回以降、2ヶ月に1回、年に6回の開催をする予定であることが報告され、今回は、委員の実践報告、河野委員による道徳教科書の分析についての報告、ゲスト講師を招いての研究会を実施することとなった。

4. その他

本分科会の活動と関連する企画として、日本哲学会第80回大会において、哲学教育ワークショップ「小中学校の特別な教科「道徳」の教科書と使い方を考える」が5月14日（金）に開催される旨、直江委員より情報提供が行われた。